



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：399千円（平成30年度）

浜松市の中山間地域再生の可能性と課題についてのシンポジウム「2019まちむらりレーション市民交流会議～浜松の中山間地域の可能性を考える～」

目的・趣旨	船戸ゼミによる浜松市の中山間地域についての調査結果や「地域連携実践演習」である「引佐耕作隊」の活動を紹介することを通じて大学や大学生が浜松の中山間地域づくりに果たす役割や可能性を議論する。
日時・場所	平成31年1月25日 午後1時から午後4時15分 浜松市 浜北文化センター 小ホール
体制	（実施代表者）文化政策学部 文化政策学科 准教授 船戸 修一
共催・後援等	（共催）浜松市 市民部 市民協働・地域政策課

内容

平成31年1月25日（金）13時～16時15分、本学と浜松市役所（市民部 市民協働地域政策課）との共催で、浜北文化センターの小ホールにおいて、浜松・中山間地域づくりシンポジウム「2019まちむらリレーション市民交流会議～浜松の中山間地域の可能性を考える～」を開催し、天竜区佐久間町のある集落における船戸ゼミの調査結果を発表した。この発表では、「集落から転出した子ども（＝他出子）」の将来的な実家への帰郷する意志についてのアンケート調査から、帰郷意志の有無にかかわらずその意志を親に伝えることが難しい理由を説明し、その意思を表明することによって集落維持につながる方策を提案した。



告知チラシ（表）



告知チラシ（裏）

結果・成果

今回のシンポジウムでは「集落から転出した子ども（＝他出子）」が将来的な集落維持の担い手になることを発表するため、その「他出子」が数多く移住すると思われる浜北区で開催することによって中山間地域出身者の参加を期待した。しかし基調講演者の日程の都合より、当初予定していた休日ではなく、平日の開催となり当日の参加者が120名程度であった。次年度は、休日に開催し、より多くの中山間地域出身者の参加を企図したい。今回のシンポジウムでは、具体的に浜松の中山間地域のある集落の調査結果ならびにそれを踏まえた実践活動を説明することによって「他出子」を活かした地域づくりを主張した。山間部と街中の地域と大合併し、山間部の人口が街中に流出している現在、山間部の集落維持の問題は深刻化している。その解決策を中山間地域の住民に対して発表できる「まちむらリレーション市民交流会議」が果たす役割は大きい。次年度も、このようなシンポジウムを本学と浜松市によって共催し、本学が浜松の中山間地域への貢献可能性をアピールするだけでなく、この地域の住民へのエンパワーメントにもつなげていきたい。

